



# 元気っ子

No.268 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

12月に入り、令和元年も残すところあと一ヶ月となりました。本来ならばもっと寒くなっていないとおかしいような季節になっているはずなのですが、今年は「寒い！」という日がまだ数える程度しかありません。やはりそれだけ気候変動、温暖化は深刻だということだと思います。いつもこの「元気っ子」で書かせてもらってはいますが、是非ご家庭でも何か一つでも環境に配慮したようなアクションを決めて実行してみてください。もはや個人個人の決心でしかこの環境破壊は止められないことだと思います。テレビでも報道されていましたが、オーストラリアの山火事で全身ヤケドを負ったコアラが森を彷徨っていて救助されたそうです。あまりにショッキングな映像で目を覆いたくなるようなものでした。アマゾンの森林火災でも報道はされないにしても同じようなことが世界各地で発生しています。もはや「対岸の火事」では済まされない事態になってきているということを我々も自覚しなくてはならないと思います。小さなことでもコツコツと、是非子どもたちのために少しでも明るい未来を残してあげられるように、ご家庭でも話し合ってみてください。

先月は全国私立保育園連盟の研修セミナーに参加してきました。本来、保育士を連れて行きたかったのですが、お遊戯会前ということもあり、今回は私一人での参加となりました。夜は懇親会にも参加させて頂き、全国の園長先生たちと交流をしてきました。中には理事長が園長をしていた頃に親しくしていた先生もあり、懐かしいお話もさせて頂きました。こうやって全国に仲間ができて、保育環境の話や研修内容について語り合える時間は本当に楽しく幸せなものです。このような交流を重ねていくと、いつも思うのですが、自分の園を客観的に捉える視点が鍛えられていくように感じます。この客観的視点から自園の見直さなくてはいけない部分、守っていかなくてはならない部分の見極めをし、前に進んでいかないといけないと感じています。我々大人たちが仲間と交流し、コミュニケーションを大切にしている姿を子どもたちに見せることも大切な保育の一つになります。研修セミナーで講師の先生の言葉の中に「子どもたちを囲んでどれだけ素敵な大人が存在するかが大切」というものがありました。我々がながさわ保育園でも職員間の連携を大切にしながら、子ども一人一人に対してしっかりと共感性を持ち、また、育て急がない、ゆったりとした保育を心がけていこうと思います。

講師の先生の著書の中にこんな一文がありました。とても共感できる言葉なのでここに掲載しておきます。「完璧な人などどこにもいません。できないことはあって当たり前です。できないことは出来る人に助けをもらい、あなたはあなたのできることで誰かを助けてあげましょう。みんながそれぞれに、良いところを生かし合ってください」そして最後にマザーテレサのこの言葉で令和元年最後の「元気っ子」とさせていただきます。

「思考に気を付けなさい、それはいつか言葉になるから。  
言葉に気を付けなさい、それはいつか行動になるから。  
行動に気を付けなさい、それはいつか習慣になるから。  
習慣に気を付けなさい、それはいつか性格になるから。  
性格に気を付けなさい、それはいつか運命になるから。」

